

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2017/12/29	2018/8/31	2018/8/31	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	22,764.94	22,865.15	22,865.15	24,129.34	2018/1/23	14,864.01	2016/6/24
NYダウ	ドル	24,719.22	25,964.82	25,964.82	26,616.71	2018/1/26	15,450.56	2016/1/20
円/ドル	円	112.69	111.03	111.03	123.76	2015/11/18	99.02	2016/6/24

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 米国とメキシコがNAFTA(北米自由貿易協定)再交渉で合意したことを受けて続伸～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+263.38円(+1.17%)、TOPIXが+26.15ポイント(+1.53%)となり、米国とメキシコがNAFTA再交渉で合意したことを受けて続伸となりました。業種別(東証33業種)にみると、海運業、その他製品、電気機器など29業種が上昇する一方、電気・ガス業、建設業、小売業など4業種が下落しました。週明けの27日は、先々週末の米国株市場が堅調に推移したことや米国とメキシコがNAFTA再交渉で合意するとの観測が広がったことなどを受けて、上昇して始まりました。その後、①27日、トランプ大統領がメキシコとの間で新たな貿易協定に署名することを発表したこと、②米国において市場予想を上回る経済指標の発表が相次いだことなどから堅調に推移し、日経平均が一時23,000円をつける場面もありました。しかし、週末31日、トランプ大統領が6日まで行われる公聴会が終了次第、2,000億ドル相当の中国からの輸入品に対し追加関税を発動する可能性があることを示したことが嫌気され、下落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
9月3日	Mon	日本	流動性供給入札 設備投資(前年比)	4-6月期 3.4%
		中国	財新中国製造業PMI	8月 50.8
9月4日	Tue	米国	ISM製造業景況指数	8月 58.1
9月5日	Wed	米国	貿易収支	7月 -463億*
9月6日	Thu	米国	ADP雇用統計	8月 219千人
			ISM非製造業景況指数(総合)	8月 55.7
			製造業受注指数	7月 0.7%
9月7日	Fri	日本	流動性供給入札	
			景気先行CI指数	7月 104.7
		米国	景気一致指数	7月 116.4
			非農業部門雇用者数変化 失業率	8月 157千人 3.9%

決算発表予定 他	日本	決算発表 : 9/3 ビジョン 9/6 積水ハウス
	海外	決算発表 : 9/5 バイエル 9/6 ブロードコム

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 下値は限定的ながら、米中貿易摩擦への警戒感などを背景に日経平均23,000円近傍で揉み合う展開～

今週の日本株市場は、①今月20日の自民党総裁選を控え、安倍政権は株価下落や円高進行を回避する姿勢を強めるとみていること、②バリュエーション面で割安感があることなどが下値をサポートする一方、③6日の公聴会終了後、米国が2,000億ドル相当の中国からの輸入品に対し追加関税を発動する可能性があることや、NAFTA再交渉で合意に至らなかった米国とカナダが5日に交渉を再開することを受けて貿易摩擦への警戒感が残ること、④FRB(米連邦準備理事会)の利上げスタンスに影響を与える米国雇用統計の発表が週末に控えていること、⑤日経平均が23,000円を上回る局面で売り圧力が強まる傾向にあることなどが上値を抑えることから、日経平均23,000円近傍で揉み合う展開を予想します。

その他の注目材料として、日本では7日の景気指数、米国では4日のISM製造業景況指数、6日のADP雇用統計やISM非製造業景況指数、製造業受注指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

URL: <http://www.alamco.co.jp>